

man の語法

著者	神崎 高明
雑誌名	Ex : エクス : 言語文化論集
号	4
ページ	47-59
発行年	2006-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10236/5981

man の語法*

神 崎 高 明

1. はじめに

英語の語彙は、1970年代以降フェミニズムの影響で大きく変わってきた。本稿の目的は、近年のフェミニズムの影響によって、man およびその複合語の chairman などの表現がこの30年余りの間にどのような意味変化を被ってきたかを論じることである。

女性の地位向上を求める運動は1960年代の後半にアメリカを中心に盛んになった。その結果、英語は語彙面で様々な影響を受け、従来使用されてきたことばの使用頻度が少なくなったり、新たにことばが生まれたりしている。女性の解放運動を意味する women's lib ということばもその頃生まれており、OED²によれば、1968年が初出である。同じ年に sexism (性差別) という語も生まれている。本稿では、man に関連することばを中心に、主に1970年代以降の英語の語彙の変化を、British National Corpus (BNC) などのコーパスも使用しながら探っていく。

2. man の意味

トマス・ジェファーソンが1776年、アメリカ独立宣言の中で“all men are created equal” (すべての人は平等につくられている) とか “governments are instituted among men, deriving their just powers from the consent of the

* 本稿は、神崎 (2005) (「man と chairman の語法」) に大幅に加筆修正を加えたものである。

governed”（人々の中に政府が組織されること、そしてその正当な権力は被治者の同意に由来するものであること）などと言った時、ジェファーソンは men が当時参政権を持たなかった女性を含むなどということは考えだにできなかったであろう。ジェファーソンの言う men は明らかに男性のみを指していた（Miller and Swift 1988: 12）。

1970 年代のフェミニスト達は、次のような文を挙げて、man が男女を含む人間ではなく、男性だけを指示する文脈で使用されることを指摘した。

- (1) *Man's* vital interests were life, food, access to females, etc. (Graham 1975: 62) (男性の重要な利害は生活、食べ物、女への接近だった)
- (2) *Man* is the only primate that commits rape. (Miller and Swift 1976: 25) (男性だけがレイプをする霊長類である)
- (3) *Man*, being a mammal, breast-feeds his young. (Miller and Swift 1976: 26) (ほ乳類の男性は子供を母乳で育てる)

確かに、(1)と(2)の man は男性と解釈されるのが普通であり、(3)の man を男と解釈すれば、冗談としか受け取られない文である。もし(1)の man に女性が含まれていたならば、(1)は(4)に書き換えられていただろう（Graham 1975: 62）。

- (4) *Man's* vital interests were life, food, access to the opposite sex, etc.

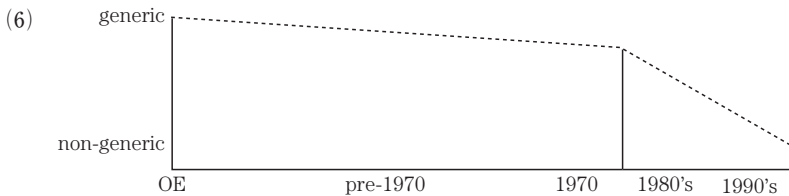
また、もし次の文を聞いた人が玄関に行って男性ではなく、女性が立っているのを見つけたならば、騙されたと思うのが普通である。

- (5) A *man* is at the front door asking for you. (McConnell-Ginet 1980: 11)

このように McConnell-Ginet は man といえば「男」をまず思い浮かべるのが現

代英語を話す母語話者の直感であると主張している。

man の意味変化を歴史的に調べた Sunderland (1991: 511) によれば、古英語の時代から 1970 年までは総称 (generic) の man の使用は千年以上の長いスパンをかけて徐々に減ってきたということが言えるが、1970 年代中頃から、急にその用法が衰退し、男のみを表すことが多くなっていると言う。



また、man が男女を意味する総称としての用法よりも、女性を排除し、男性のみを意味することが多いことは、1970 年代から 80 年代にかけての様々な心理学実験でも立証されている (Pauwels 1998: 71)。

ところで、man は語源的にはもともと男だけを表してはいなかった。man はサンスクリット語の manu という語にさかのぼり、数千年の間、男女を含めた人間の意味で用いられてきたのである (Bolinger 1980: 96)。たとえば古英語では人間は man であり、男は wer、女は wif (または wifman) であった。man が wer に取ってかわって男の意味で使われるようになったのは中英語以降のことであり、man のもつ長い歴史のなかでは比較的最近のこととすることができる。ちなみに現代英語の woman は wifman から派生している (AHD⁴)。このように、語源的には man が人間を指すことは明かであるが、だからといって、いつまでも語源にこだわり続けるわけにもいかない。現実の英語は変化し続けているからである。

3. 複合語の -man

70 年代初めごろ、人喰いザメは英語では man-eating shark というが、では英語圏のサメは男しか食べないサメなのかといった話がまことしやかに話されたことがある。英語で殺人は manslaughter というが、そこには女性が含まれないのであろうか。manhole(マンホール)に落ちるのは男性だけか、などという笑い話もある。村上春樹氏の『やがて哀しき外国語』の中には、米国コネチカット州の Goodman という名前の主婦が Goodperson に改名したなどという笑えない話が紹介されている。

英語の語彙が男性中心であることがフェミニストによって指摘されてから、多くの言い換えが行われるようになった。国民を表す固有名詞の Englishman (Frenchman, Irishman) などの使用を避けようとして、English person とか the English ということも増えてきている。総称を表す man の場合には、humans, human beings, human race, human kind, men and women などと言い換えられることが多くなっている。

ここで、businessman など -man の形を持つ語が、どのように言い換えられているのかを見てみよう。

- | | |
|---------------------------|---|
| (1) anchorman (ニュースキャスター) | anchor, newscaster, broadcaster, reporter |
| businessman (実業家) | executive, entrepreneur |
| cameraman (カメラマン) | photographer, camera operator |
| chairman (議長) | chair, convener, moderator, coordinator |
| craftsman (熟練工) | artisan, craft(s)worker |
| fireman (消防士) | firefighter |
| foreman (現場監督) | supervisor |
| layman (素人) | nonprofessional, amateur |

mailman (AmE) / postman (BrE) (郵便配達人)	mail (letter) carrier, mail deliverer
newsman (新聞記者)	journalist, newspaper reporter, correspondent
ombudsman (オンブズマン) ¹⁾	researcher, mediator, referee, ombudscommittee
policeman (警官)	police officer
railwayman (BrE) (鉄道員)	railway worker
repairman (修理工)	repairer, technician
salesman (販売員)	shop assistant, sales clerk
spaceman (宇宙飛行士)	astronaut
spokesman (代弁者)	representative
sportsman (スポーツマン)	athlete, player
storeman (店主、倉庫係)	storekeeper, stores officer
tradesman (商人)	trader
weatherman (気象予報士)	weather caster, weather reporter, weather officer, meteorologist
workman (労働者)	worker

上記の言い換えは、代表的なものを挙げただけであり、他の言い換えも可能である。たとえば、-man の代わりに -person をつけた形の語も、1970 年前後からその使用が目につくようになった。

(2) anchorperson, businessperson, chairperson, layperson, newsperson,

1) ombudsman は元々スウェーデン語であり、man は one を意味する、したがって、本来は性差を示さないが、ombudsman が英語として使用されるようになってからは言い換えが行われるようになった。

ombudsperson, salesperson, spokesperson, sportsperson, tradesperson

これらの語の中で、tradesperson などは OED² によれば 1886 年が初出であるが、chairperson は 1971 年、layperson は 1975 年、spokesperson は 1972 年が初出というように、1970 年代前半に、新語として使用され始めた。しかしながら、-person を使用したこれらの語は、ぎこちなく (wooden)、仰々しく (pompous) 感じられることも事実である (Garner 1998: 596)。BNC (British National Corpus) による使用頻度を見てみると、やはり、従来の -man の用法が -person よりはるかに多いが、上記の中で salesman が 694 例 (以下すべて複数形を含む)、salesperson は 228 例であり、salesman と同様とは言えないまでも、かなり -person が使われていることがわかる。その他の -person 形の頻度はまだまだ低い。たとえば、layman は 331 例あるが、layperson は 9 例のみである。anchorperson, ombudsperson, newsperson の例は BNC には見あたらない。

ここで、man が複合語の語頭に使用される場合を見てみよう。これらの場合も言い換えが存在するが、言い換えは必ずしも定着した表現になっているとは言い難いものもある。

(3) manhole (マンホール)	utility hole, sewer, conduit, personhole
manhours (人時)	working hours, work hours
mankind (人類)	humanity, humankind, human beings, people
manmade (人工の)	artificial, handmade, synthetic
manpower (人力)	work force, labor, staff, personnel

Rees (1993) はフェミニストが manhole のことを femhole と言うことを指摘している。確かにこの用法は一部のフェミニストによって使われることがあるが、一般には使用されていない。

次のような成句表現の場合、その成句という性質から考えても、はたして言い換

えが必要かどうか自体も問題になってくるが、一応、言い換えを挙げてみよう。

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| (4) every man for himself (自分は自分、人は人) | everyone for themselves |
| man in the street (普通の人) | ordinary person, average person |
| no man's land (所有者不明の土地) | uncontrolled area |
| to a man (一人のこらず) | to the last person |
| man-to-man talk (包み隠しのない話) | person-to-person talk, frank talk |

フェミニズムの影響で man 以外の多くの男性中心の表現が中立的な表現に換えられつつある。たとえば、イギリス鉄道局 (British Rail) は stationmaster を station manager に正式に変更している。

man 以外の言い換えも数限りなくあるが、ここでは、その中で代表的なものを少し挙げてみよう。

- | | |
|------------------------------|---|
| (5) newsboy (新聞配達少年) | newspaper carrier, news deliverer |
| airline stewardess (スチュワーデス) | flight attendant |
| authoress (女流作家) | author |
| housewife (主婦) | homemaker |
| forefather (先祖) | ancestor, forebear |
| maid (手伝い) | houseworker, household worker,
household cleaner |

さて、ここで、-man の形の複合語について詳しく見てみることにする。Biber *et al.* (1999) のコーパスを使っただけの調査によれば、100 万語中の頻度は spokesman が 115 回、spokeswoman が 20 回、chairman が 115 回、chairwoman 1 回とある。この数字からみると、-man を含む表現は、-woman と比較して、依然として多いことが分かる。

ところで、-man に対応する -woman の表現が常に英語に存在しているわけではない。-woman が存在するにもかかわらず、それに対応する -man がいないものとして、Biber *et al.* (1999: 313) は 7 つの単語を挙げている。

- (6) beggarwoman, catwoman, charwoman, ghostwoman, needlewoman, slavewoman, sweeperwoman

ここで、chairman に関してもう少し詳しく観察してみよう。chairman の歴史は古く 1654 年にさかのぼることができる。従来 chairman は男女ともに使用されていたが、chairman の語彙中に man が存在するため、男女の両方に使用できる語彙として、フェミニズムの観点から新たに chairperson という語が作られた。chairperson という新語ができたため、chairman が女性に使用されることはなくなったかという、そうではない。その使用頻度は別にしても、次の例文のように、現在でも chairman は女性に対しても使用されていることは間違いない。

- (7) the commission's *chairman*, Rachel Evans (Joan Cook & Judith Cummings, N.Y. Times, 21 Mar.1980 [*Webster Dictionary of English Usage*: 235])

BNC の chairman の 3,000 例を調査したところ、chairman が男性を示す例文が圧倒的に多いことがわかったが、明らかに女性を表している文脈で使用されている例も 11 例見つかった。以下はその代表例である。

- (8) She became *chairman* of the orchestra and later became a member and *chairman* of the Keswick Music Society. (BNC: A 2 N 38)
- (9) Mrs Freda Hindley, *chairman* of the bench, told her. (BNC: CBF 640)
- (10) According to Ms. Marjorie Thompson, the *chairman* of CND, there

are now between 100 and 130 Labour Members who support CND
and are its members. (BNC: HHX 1610)

ここで、アメリカン・ヘリテージ辞典 (AHD⁴) の語法委員が chairman をどの程度容認しているかをみてみよう。次の (11) のように、chairman が男女の区別なく一般的に使用されている時には、語法委員のうち 67% が容認している。男女別では、女性委員は 52%、男性委員は 76% が容認となっている。

(11) The chairman will be appointed by the Faculty Senate.

ところが、議長が女性であることが文中から明かである (12) のような場合には、語法委員のうち 48% しか容認していない。男女別では女性は 43%、男性は 50% が容認している。

(12) Emily Owen, *chairman* of the Mayor's Task Force, issued a statement assuring residents that their views would be solicited.

このことから、chairman ははっきりと女性を表す文脈では、使いにくくなっていることがわかる。

男女の区別なしで用いられる議長を意味することばとして chairperson があることは、先ほど述べたが、このことばの初出は OED² によれば 1971 年であるので、フェミニズムの影響で考案されたことばであると考えられる。

(13) The College of Arts and Sciences at Northeastern University seeks an innovative and dynamic *Chairperson* for the Department of Modern Languages. (LSA Bulletin, June 1995)

(14) "The approach to diseases in general has been sort of haphazard,"

says Donna Brogan, *chairperson* of the biostatistics division of Emory University's School of Public Health... (Time, 12 Oct. 1992)

- (15) Stanley Fish, the avant-garde *chairperson* of the English department at Duke, proclaims that the university's commitment to affirmative-action hiring is a way to seize “our historicist, postmodernist, poststructuralist moment.” (ibid., 6 May 1991)

しかしながら、男女の区別なく中立的なことばとして作られた *chairperson* も女性に使われる傾向があることを Bolinger (1980: 98), Miller and Swift (1988:148) は指摘している。Peters (2004: 102) も *chairperson* には女性のコノテーションがあると指摘している。Holmes (2001: 118) は *chairperson* は *chairwoman* と同義に使われることがあると言っている。ここで、コーパスで *chairperson* がどのように使用されているのか見てみよう。BNC には *chairperson* の例が 151 例あるが、その中の半数程度は男女を指すものではなく、中立的な文脈で使用されている。明らかに男性を指すと思われる例は 14 例、女性を指すと思われる例は 18 例であった。また、Wordbanks でもほぼ同様に、45 例の *chairperson* 中で、男性を指すと思われる例は 8 例、女性を指すと思われる例は 12 例であった。

このように BNC, Wordbanks などを見る限りでは、男女の使用に大きな差はないわけであるが、*chairperson* は時として「女性」を含意することがあることに留意する必要があるだろう。ここでは、BNC の中で *chairperson* が女性を示す例を挙げておく。

- (16) Ruth is *Chairperson* of the local Consumers' Association. (BNC: HA0 117)
- (17) ..., a cabinet committee on the inner cities was established with Mrs Thatcher as its *chairperson*. (BNC: G 20 112)

chairperson のもつ含意を避けるため、chairman の man を取って chair という言い方もある。椅子を表す chair が議長の意味で使われるのは、言語学的には換喩 (metonymy) と呼ばれる現象であり、決して珍しくない。OED² によれば、この用法は 17 世紀にはすでに存在していたとある。初出は 1658 年である。chairman の意味で chair が使用されている例を見てみよう。

- (18) The chairman of directors of each packing company is called the *chair*. (OED²)
- (19) To which Laura D'Andrea Tyson, *chair* of the President's Council of Economic Advisers, calmly remarked to a colleague, "That's good. It shows they fear that we're on to something that will get results."
(*Time*, 21 Jun. 1993)

議長の意味で chair が使用されることが多くなっているが、chair を呼びかけとして、“Mr. Chair, I have a question.” などと使うのは、依然として違和感が残る。

議長が女性であることを特に表したい場合には chairwoman ということもある。(19)では Laura D'Andrea Tyson は chair と呼ばれているが、(20) では chairwoman と呼ばれていることに注目されたい。

- (20) Laura D'Andrea Tyson, *chairwoman* of the President's Council of Economic Advisers, calculates that each drop of 1 percentage point in long-term interest rates saves the U.S. economy between \$50 billion and \$66 billion.
(*Time*, 16 Aug. 1993)

chairman(men), chairperson(s), chairwoman(women) の頻度数を BNC で調べてみると、圧倒的に chairman (11398 件) の使用が多く、chairperson (163 件), chairwoman (72 件) の使用は少ない。同様のことは Wordbanks でも言える。

chairman に対して chairperson の使用頻度の少なさは、女性の社会進出の度合いなども含めて様々な解釈が可能であるが、ジェンダー中立的 (gender-neutral) な用法としての chairperson がまだ十分に確立されたものになっていないということを表していることだけは明らかかなようである。

4. おわりに

本稿では、man 及びその複合語の chairman などの表現を取り上げ、それらがフェミニズムの影響で、どのような意味変化を被ってきたを考察した。chairman の代用語としての chairperson の意味変化は依然として進行中であり、その用法に揺れがあり、使用法が定着していないことを見た。語源的にみると、man は人間という意味であるから chairman を chair や chairperson に言い換える必要はないが、現代の英語母語話者の直感では man は男を意味している。したがって、今後 man に関連する言い換え表現が定着しない限り、新たに代用語が作られることが予想される。

参考文献

- Biber, D. et al. (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London: Longman.
- Bolinger, D. (1980) *Language: The Loaded Weapon*. London: Longman.
- Garner, B. (1998) *A Dictionary of Modern American Usage*. Oxford: Oxford University Press.
- Graham, A. (1975) "The Making of a Nonsexist Dictionary", in Thorne B. and N. Henley (eds.) (1975) *Language and Sex: Difference and Dominance*. Rowley, Mass.: Newbury House, 57-63.
- Holmes, J. (2001) "A Corpus-based View of Gender in New Zealand English," in Hellinger, M. and H. Bußmann (eds.) (2001) *Gender across Languages*. Vol. 1. Amsterdam: John Benjamins, 115-136.

- 神崎高明 (2005) 「man と chairman の語法」『英語語法文法研究の新展開』田中実・神崎高明 (編)、東京：英宝社、14-20.
- McConnell-Ginet, S. *et al.* (eds.) (1980) *Women and Language in Literature and Society*. New York : Prager.
- Miller C. and K. Swift (1976) *Words and Women: New Language in New Times*. New York: Anchor.
- Miller, C. and K. Swift (1988) *The Handbook of Nonsexist Writing*. 2nd edition, New York: HarperPerennial.
- Pauwels, A. (1998) *Women Changing Language*. London: Longman.
- Peters, P. (2004) *The Cambridge Guide to English Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Rees, N. (1993) *Politically Correct Phrasebook*. London: Bloomsbury.
- Sunderland, J. (1991) “The Decline of Man,” *Journal of Pragmatics* 16: 505-522.

AHD⁴: American Heritage Dictionary (4th edition)

OED²: Oxford English Dictionary (2nd edition)